

# この家庭学習法が小学生の学力を伸ばす

- ・毎日勉強する習慣は、決まった時間に決まったことをする生活習慣のひとつに組み入れるとうまく身につく。勉強と生活とは一体の関係にある。
- ・「子どもを王様にしない」で、やるべきことは強制してでもやらせる強い気持ちが必要。

- ・まずは「読み・書き・計算」の基礎が大切。
- ・子どもを「他人任せにしない」、「他人と比べない」。
- ・「ほめる」ことを忘れない。「ほめる・しかる」を比率にすると9対1。
- ・学力をつくりあげる「4つの要素」



①天性、②環境（カギを握るのはやはり家庭）、③素直な性格、④努力する才能

- ・楽しかろうがおもしろくなかろうが、基礎というのは叩き込むもの。
- ・国語の成績が伸びない子というのは、例外なく本を読む習慣に欠けている。
- ・まず親の方が「根気よく」を心がけないと、子どもの「根気よさ」など育つはずがない。
- ・いわゆる「できない子」というのは、勉強しない子、親がさせていない子。
- ・子どもの努力不足を責める前に子どもにさせていない親の責任を自覚するべき。
- ・勉強のための個室はいらない。
- ・まだ小学生のうちに、しかも低学年から好きにやらせておいて勉強の習慣がつくということは絶対はない。
- ・「我慢」させる時は「我慢」させることが大事、「けじめ」をつける時は「けじめ」をつけさせるようにするしかない。
- ・親が一番に考えなければいけないのは子どもの「身体の成長」。
- ・しっかり睡眠をとって、うんと運動しておいしく食事をとって、一生の基礎になる身体をつくるのが大事。
- ・朝食をきちんと食べられるかどうか勝負どころ。勉強面でも生活面でも「できる・できない」の境界線となる急所、「たかが朝食、されど朝食」。

